



Pick Up News 早いもので今年も半分が、そして前期が始まって3ヵ月が過ぎようとしています。各科目での「課題」をこなすことで大変な毎日かと想像いたします。しかし、これまで卒業したすべての学生が、またわれわれ教員も、同じような時間を過ごして来ました。さらには全国の建築学生も同じような時間を過ごしています。建築の学びは広く、深く、とても大変な学問です。しかし大変な学びのその先には、必ず身につく力があります。苦手なこと、興味が湧かないこともあるかと思いますが、一つでも楽しいこと、興味のあることを探して日々の学修に向き合ってください。必ずその分野や道が見つかるものと思います。さて、建築学科では建築学部入学の学生の卒業にあわせて大学院を整備しました。来年4月から、工学研究科建築学専攻は『建築学研究科建築学専攻』に改組いたします。「建築学」の学位（修士、博士）も出せるようになります。学部4年間では学びきれない建築学を、大学院の2年間（博士前期課程）も使って学ぶ環境を整えました。進路の一つとしてぜひ「大学院」も検討して下さい。前期授業も後半戦。定期試験も控えています。あらためて日々の講義を振り返り、時間をうまく使って復習をしながら備えて下さい。蒸し暑い梅雨も、しばらくの辛抱となりそうです。バイクの運転やまだまだ流行っているCOVID-19にも気をつけながら、充実した日々を過ごして下さい！

2024年4月大学院 建築学研究科 建築学専攻の設置が決定！

建築学部の完成年度に合わせて、2024年4月に大学院建築学研究科建築学専攻が新設されます。先頃、文部科学省から結果が届き、無事受理されました。従前の修士（工学）、博士（工学）に加えて、新たに修士（建築学）、博士（建築学）の学位も授与できるようになります。建築学は、従来の工学分野にとどまらず、芸術学、歴史学、社会学等を含むホリスティックな学問です。先の見通せない不確かな社会に突入している現在、社会や人々の暮らしのニーズ、価値観の多様化や変化に柔軟に対応すべく、広く学び修得してきた建築学に関する専門的知識・技能をつなぎ、進化させ、高い知識と倫理観を備えた技術者や設計者、教育・研究者として持続可能な社会の実現に貢献できる人材の養成を目指します。建築学科では、多くの皆さんの進学を期待しています。

【Denmark's daily #1】不破正仁准教授は海外研修制度を活用して5月より来年の2月までデンマーク・オーフスに滞在。活動報告をご紹介します。

5月10日の朝、デンマークのオーフス市に到着してからあっという間にひと月が経過しました。このひと月は大変過ごしやすいくらいで、1番良い季節にデンマーク入りできました。無事に市民登録の手続きも終えて、本格的にこちらの生活がはじまりました。受入先のオーフス建築大学では、歓迎プログラムをご用意いただき、多くの研究者・先生方にご挨拶する機会をいただきました。いずれの研究も大変興味深く、興奮しました。そして、みなさんとても親切でフレンドリーに接してくださるので、最高のスタートを切ることができました。また、5/22には一年生の学外研修に同行させていただき、ユトランド半島の文化的生態的景観を視察することもできました。バスの中や野原でコーヒータムが用意されているところにデンマーク文化を感じました。これは最高です。個人的には、デンマークのメインの島を踏査しようと、オーフスのあるユトランド半島から首都コペンハーゲンがあるシェラン島、そして、オデンセと屋敷林景観のあるフюн島を視察してきました。コペンハーゲンへは、バスとフェリーの旅を、オデンセへはレンタカーの旅を試しました。いずれも快適で、ひとまずメイン島全制覇の旅、完了できました。こちらに来て、何より驚いているのは、日照時間が長いことです。日の入が遅く夜の9時なのに夕方みたいで、その点がとにかくカルチャーショックです。知ってはいましたけども、体感的にびっくりしています。



「定禅寺通ナイトガーデン〜街灯り社会実験」に参加：錦織研究室を中心とした4年生、2年生のメンバーが照明ワークショップに参加しました。体を動かし、街を体感しながらのワークショップは、教室では得られない貴重な体験となりました。

日本造園学会東北支部大会で、不破正仁研究室に所属する大学院生が以下のテーマで研究成果を発表しました。「大崎耕土における屋敷林の樹木構成とその配置パターン」の研究で優秀学生賞を受賞しました。



6月24日（土）に第1回オープンキャンパスが行われました。昨年末ではコロナウイルス感染拡大防止のため、完全予約制で人数を制限しての開催でしたが、今年度からは人数制限を設けない対面形式の開催となりました。当日は、建築学科の展示ブースには非常に多くの皆様足を運んでいただきました。第2回オープンキャンパスは、7月22日（土）、23日（日）の2日間わたって開催されます。お手伝い下さる学生さん大募集です。サボセンまで！



Pick Up Lab. 薛研究室は院生5名、学部生8名の国際色豊かな研究室です。自主性の強いメンバーが多く、スーパーゼネコンをはじめとする大手企業への就職者も多数います。私たちが大切に行っていることは研究と遊びのバランスをとることです。研究テーマは、画像解析を用いたヘルスマonitoringシステムを中心に、中間層免振、TLDに取り組んでいます。その中で教員と学生が参加する飲み会は定期的に開催され、学生だけでも餃子・たこ焼き・バレンタイン・二郎パーティーなどもしました。また、希望者は上海での研修に参加することも可能です。学生生活の素晴らしい思い出を作りたい方はぜひ薛研究室へ！切ればわかる！！



楽しい研究室Part1



楽しい研究室Part2


4年 森 麻奈さん
宮城県工業高校 出身

Pick Up Student 無事、来年度からの就職先も決定し3年までの課題に追われる生活と比べると随分余裕のある日々を送っています。資格や興味のある分野の勉強をしたり、積みっぱなしになっていた本を減らしたりと、何かと充実した毎日です。建築が好きでこの大学に入学しました。しかし建築学は私が思っていたよりも遥かに広大で深甚な分野であり、自分は何をしたかったのか、何をしたいのが分からなくなり随分と悩んだ時期もあります。少しずつ増えていく建築の知識と周囲の方々のおかげで納得のいく進路を決定することが出来ました。残り少ない学生生活ですが、この貴重な時間をこれからの自分のために有効に使っていきたいと思います。


3年 渡辺 陸斗さん
いわき秀英高校 出身

Pick Up Student 私が東北工業大学の魅力だと感じている点は充実した学習環境です。先生方のサポートが手厚く講義内容や進路に関する質問など私達学生にとっても真摯に対応して頂いており、勉強する環境が整っていると思います。特に建築学部では意匠、構造、設備、材料、環境など様々な分野の先生方がいらっしゃるため、建築を総合的に学べるという点も魅力の一つだと感じています。実際に私も入学当初は建築と言えばデザインのイメージが強かったのですが、大学で学ぶことで建築の奥深さを知ることが出来ました。また、普段の講義でも外部の講師の方がご登壇されることも多く、学内での学びと実社会での業務との関連性が実感しやすいという点も大きな魅力ではないかと思えます。